

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業の概要

事業名	一般国道236号（帯広・広尾自動車道） 大樹広尾道路（豊似～広尾）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道広尾郡広尾町字紋別 至：北海道広尾郡広尾町字ラッコベツ	延長	12.3 km		

事業概要
帯広・広尾自動車道は、北海道横断自動車道帯広ジャンクションから分岐し、帯広市等を経由し広尾町に至る高規格道路である。このうち、大樹広尾道路（豊似～広尾）は、広尾郡広尾町字紋別から広尾郡広尾町字ラッコベツに至る延長約12.3kmの自動車専用道路である。

事業の目的、必要性
当該区間の整備により、災害時においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築し、重要港湾十勝港とのアクセス向上により全国の食を支える地域産業を支援するとともに、高次医療施設へのアクセス向上により救命救急医療活動を支援するものである。

全体事業費 約480億円 計画交通量 約4,100台/日



関係する地方公共団体等の意見
【北海道知事】
一般国道236号（帯広・広尾自動車道）大樹広尾道路（豊似～広尾）の予算化に同意いたします。
本道における高規格道路ネットワークは、圏域間の交流拡大や広域観光の振興、地域経済の活性化への貢献のほか、大規模災害における代替路の確保など、道民生活や経済活動を支援する重要な役割を果たすものです。
「一般国道236号（帯広・広尾自動車道）大樹広尾道路（豊似～広尾）」の整備は、国内有数の農業・酪農地域である十勝地域の農産物の輸送をはじめとする物流の効率化、救急搬送時間の短縮、大規模地震・津波発生時の避難及び緊急車両の通行確保、日高・十勝を巡る周遊観光等の振興など多くの効果を発揮するものと考えています。
令和4年度の新規事業として予算化していただきますよう、特段のご配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
・費用対便益：便益が費用を上回っている。
・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H28.3.1）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.2 (0.7)	総費用：2,641億円 （事業費：2,271億円 維持管理費：359億円 更新費：11億円）	総便益：3,200億円 （走行時間短縮便益：2,574億円 走行経費減少便益：501億円 交通事故減少便益：124億円）	基準年 令和3年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量 -10%）	B/C=1.4（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.2（事業費 +10%）	B/C=1.2（事業費 -10%）	
	事業期間変動	B/C=1.2（事業期間 +20%）	B/C=1.2（事業期間 -20%）		

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎
事故対策		◎	別線整備により地吹雪発生箇所、事故危険区間を回避する。 【地吹雪発生箇所の回避】 現況 2箇所通過 → 整備後 0箇所通過 [全て回避] 【事故危険区間の回避】 現況 2箇所通過 → 整備後 0箇所通過 [全て回避]
歩行空間		-	注目すべき影響はない。
社会全体への影響	住民生活	◎	帯広市の高次医療施設への速達性が向上する。 【帯広市高次医療施設60分圏冬期南十勝カバー人口】 現況 12,700人 (64%) → 整備後 17,600人 (89%)
	地域経済	◎	十勝港へのアクセス向上により、物流の効率化が図られ、全国の食料供給を支える十勝・オホーツク圏の地域産業を支援する。 【所要時間（帯広市～十勝港）】 現況 83分 → 整備後 74分 [9分短縮]
	災害	◎	津波浸水予測範囲を回避し、災害時の信頼性の高い道路ネットワークを構築する。 【津波浸水予測範囲の回避】 災害時の孤立人口 現況 約6,000人 → 整備後 約200人
	環境	-	注目すべき影響はない。
	地域社会	◎	速度向上や事故率低減など、交通環境の改善・輸送効率向上により地域の産業振興に貢献する。 【所要時間（帯広市～広尾町）】 現況 88分 → 整備後 77分 [11分短縮]
事業実施環境		○	整備に対する要望が強い

採択の理由

費用便益比が一体評価で1.2と便益が費用を上回っているとともに、計画段階評価手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
また、当該区間の整備により、災害時においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築し、重要港湾十勝港とのアクセス向上により全国の食を支える地域産業を支援するとともに、高次救急医療施設へのアクセス向上により救命救急医療活動を支援するなど、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※B/Cの上段は帯広川西IC～広尾IC（仮称）を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。

新規事業採択時評価結果（令和 4 年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性 災害時においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築し、重要港湾十勝港とのアクセス向上により全国の食を支える地域産業を支援するとともに、高次救急医療施設へのアクセス向上により救命救急医療活動を支援するものである。		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現道の国道 336 号は津波浸水予測範囲を通過するため、大規模災害発生時の広尾町の孤立が課題。 	※新たな北海道総合開発計画 (H28.3 閣議決定) ・ 地震・津波による被害や社会経済的影響を最小限に抑えるため、代替性の確保のための高規格幹線道路の整備を推進する。 ※北海道総合計画（十勝連携地域）(R3.12) ・ 生命（いのち）と暮らしを守り我が国の食料共有と産業を支える交通・情報ネットワークの形成
住民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広尾町の救急搬送先は約 5 割が帯広方面であり、特に十勝圏の高次医療は管内唯一の第三次救急医療施設がある帯広市へ依存。 ・ 広尾町をはじめとする南十勝の人口の約 4 割の方が冬期には 60 分以内に到達できない状況で、速達性の確保が急務。 	※新たな北海道総合開発計画 (H28.3 閣議決定) ・ 基礎圏域中心都市と周辺市街地とのアクセス向上を図り、基礎圏域内外の広域的な交流を支えるため、都市間時間距離を縮める高規格幹線道路網等の広域交通ネットワークを整備推進する。 ※北海道総合計画（十勝連携地域）(R3.12) ・ 生命（いのち）と暮らしを守り我が国の食料共有と産業を支える交通・情報ネットワークの形成
地域経済 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高規格道路延伸や、十勝港の開発計画の進展により、十勝港の貨物量が増加傾向で、十勝地域は、小麦など全国 1 位の農産物を生産する国内有数の農業地域であり、十勝港は生産された小麦の出荷や飼料原料などの輸入を担う全国の食料供給を支える重要拠点。 ・ 現道の国道 336 号では地吹雪区間で重大事故の発生割合が高く安全な輸送ルートの確保が急務。 	※新たな北海道総合開発計画 (H28.3 閣議決定) ・ 生産地や観光地、消費地、空港・港湾等の交通拠点を結ぶ道路ネットワークの整備、ミッシングリンク解消等を推進する。 ※北海道総合計画（十勝連携地域）(R3.12) ・ 生命（いのち）と暮らしを守り我が国の食料共有と産業を支える交通・情報ネットワークの形成
その他		

事業の有効性 ・ 当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価は C ランク→B ランクに改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。 ・ また、冬期においても安全で信頼性の高い道路ネットワークが確保されるとともに、拠点都市と重要港湾間のアクセス向上が図られ地域産業の活性化、地域医療サービスの向上に貢献するなど有効性の高い事業と評価する。									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善 ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度の 変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	帯広市	広尾町	10 (5)	0.60 [C] (1.00) [D]	0.30 [B] (0.40) [C]	▲29.53 (▲29.53)	0.05 (0.04)	0.32 (0.60)	◎

事業の効率性 ・ 計画段階評価手続き完了 (H28.3.1)
--

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は帯広川西 IC～広尾 IC（仮称）を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果。